

愛媛県松山市松原泉で得られたシナヌマエビ

後藤益滋¹・丹生谷孟¹・杉浦右京¹・尾寄蓮月¹¹ 人間環境大学総合環境学部フィールド自然学科水域保全研究室

写真1 *Neocaridina davidi* (Bouvier, 1904)
シナヌマエビ (UHEC 26001) . 2026年2月8日,
後藤益滋撮影)

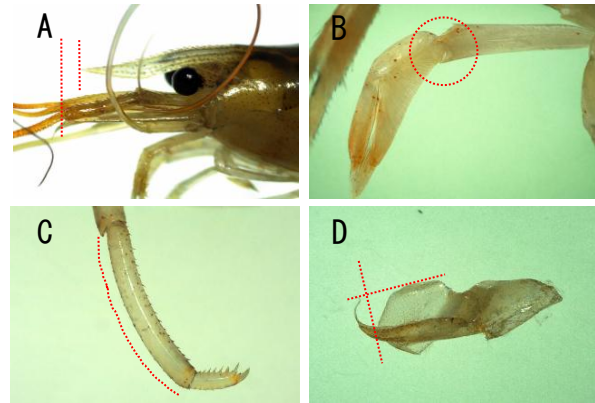


写真2 A : 額角を含む頭胸甲 (頭胸甲長 6.30 mm) , B : 第1歩脚前縁, C : 第3歩脚掌節, D : 第1腹肢内肢

種の記録

Atyidae スマエビ科

Neocaridina davidi (Bouvier, 1904)

シナヌマエビ (写真1)

標本 人間環境大学標本 (UHEC) 26001. 38 個体 (70%エタノール保存). 採集年月日: 2026年2月8日. 採集場所: 愛媛県松山市森松町松原泉 (33.787136N, 132.791017E). 採集方法: タモ網.

種の特徴

採集個体は、体全体が半透明であり、その上に青緑色から茶褐色の斑点が点在しているが、個体差が大きく様ではない (写真 2A). また、額角は、第1触角鱗の先端には届かず (写真 2A), オスの第1歩脚腕節前縁は半球状に凹んでおり (写真 2B), 第3歩脚の掌節は湾曲する (写真 2C), 第1腹肢内肢は洋梨状の形状をしている (写真 2D).

備考

本種の分類は、林 (1990) および三次ほか (2021) に従った。愛媛県内における既往記録として、今治市大西町の山之内川からの報告がある (高橋ほか, 2023). 本種を確認した松原泉は、重信川中流右岸に位置する湧水起源の小水路である。調査は厳冬期に実施したが、水温は 13°C を維持しており、年間を通じて繁殖活動が可能で環境条件を備えていると推察される。個体は、水路内に繁茂する沈水植物および抽水植物から採集された。調査区間は流呈に沿った約 10m と限定的であったにもかかわらず 38 個体確認されたことから、当該水域における生息密度は高いと

考えられる。なお、本種は在来の近縁種であるミナミヌマエビ *N. denticulata* との交雑が報告されており、厳密な種判別には DNA 解析が必要不可欠とされている (Onuki and Fuke, 2022). しかしながら、本調査地では形態的特徴からもミナミヌマエビおよび交雑が疑われる個体は確認されなかった。

引用文献

- 林 健一. 1990. 日本産エビ類の分類と生態 (51) スマエビ科—カワリヌマエビ属. 海洋と生物 66, 12(1):36–39.
- 三次充和・久本洋子・鈴木廣志. 2021. 千葉県房総半島より確認された外来カワリヌマエビ属の一種の外部形態、遺伝子情報および生活史. *CANCER*, 30:1–9.
- Onuki K, Fuke Y. 2022. Rediscovery of a native freshwater shrimp, *Neocaridina denticulata*, and expansion of an invasive species in and around Lake Biwa, Japan: Genetic and morphological approach. *Conservation Genetics*, 23: 967–980.
- 高橋弘明・清水孝昭・山本貴仁・岩田和鷹. 2023. 愛媛県今治市山之内川で採集されたシナヌマエビ. 南予生物フィールドノート, 23013.

(2026年3月10日受付, 2026年3月23日公開)

連絡先: 後藤益滋 (e-mail: m-goto@uhe.ac.jp)

(Masuji Goto, Hajime Nyunoya, Ukyou Sugiura and Renge Ozaki. 2026. Record of an invasive freshwater shrimp (*Neocaridina davidi*) from Matsubara Spring, Matsuyama City, Ehime Prefecture, Japan. NS Fieldnote, 26010)